

6 その他国有林野の管理経営

6 その他国有林野の管理経営

(1) 人材の育成

国有林野事業では、「国民の^{もり}森林」の管理経営にふさわしい人材を育成するため、森林・林業に関する専門的な知識や技術等について、森林技術総合研修所や各森林管理局が連携を図りながら、研修を行っています。

平成24年度には、低コストで効率的な伐採・搬出や資源を有効活用するための採材など適切な収穫業務や、木材の生産・流通・加工に関する実践的な知識及び技術を習得させるための研修などを実施するとともに、引き続きOJT^{注)}、民有林行政等との人事交流にも取り組みました。

また、平成23年7月に閣議決定された「森林・林業基本計画」等に即し、我が国の森林・林業の再生に向けて長期的視点に立った森林づくりを計画・指導できる技術者や、林業専用道の設計者・監督者を育成する研修の推進に当たり、各森林管理局において、引き続き国有林をフィールドとした現地実習や局職員等による講師対応等を行いました。

事例 民有林の林業技術者等との合同研修の実施

森林技術総合研修所では、民有林行政とのより一層の連携を図るため、都道府県職員と国有林野事業職員に共通するニーズのある研修については、合同で実施しています。

平成24年度には、都道府県職員を対象としていた「森林計画研修」、国有林野事業職員を対象としていた治山、林道に関する「調査・測量・設計研修」等を合同研修化し、国有林野をフィールドとして、活発な意見交換等を行いました。

(森林技術総合研修所)



場 所：東京都八王子市
説 明：写真は、測量実習の様子（上）と、内業作業の様子（下）です。

事例 「准フォレスター研修」への取組

各森林管理局では、「市町村森林整備計画」の策定支援と実行面での指導ができる技術者を育成する目的で、都道府県、市町村及び国（国有林）の職員を対象に行われている「准フォレスター研修」の推進に向けて積極的に取り組んでいます。

九州森林管理局においては、「市町村森林整備計画」の作成演習や、熊本県内の国有林を活用した路網配置や森づくりに関する現地実習等の実施にあたり、多くの職員が外部講師と共に講師を務めました。

(九州森林管理局)



場 所：熊本県人吉市（上）、熊本県葦北郡芦北町 庵の山国有林（下）
説 明：上段の写真は、市町村森林整備計画の作成演習における計画の見直しの様子（左）と、成果の発表の様子（右）です。
下段の写真は、森づくりに関する現地踏査の様子（左）と、現地での路網配置の再検討の様子（右）です。

図－5 平成24年度准フォレスター研修カリキュラム

【研修Ⅰ（第1週）】

| | 午前 | | 午後 | | | |
|---------|---|-------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------|-----------|
| 1 日目 | | | 【講義】 森林・林業再生プランの 概要、フォレスターの役割 | 【講義】 森づくりの構想 | ふり かえり | |
| 2 日目 | 【講義】 地域の森林・林業の将来ビジョ ンと市町村森林整備計画 | 【講義】 森づくりと 森林経営計画 | 【講義】 間伐実行監理演習 (路網・作業システム) | 【講義＋演習】 間伐実行監理演習 (森林作業道) | ふり かえり | |
| 3 日目 | 【現地実習】森づくりの構想実習／間伐実行監理実習(森林作業道の検討：現地踏査) | | | | | ふり かえり |
| 4 日目 | 【講義＋演習】 コミュニケーションと プレゼンテーション | 【講義】 木材の流通・販売 | 【講義＋演習】 林業労働安全 (リスクアセ メント) | 【講義】 間伐実行監理演習 (流通・販売、集約化施業) | ふり かえり | |
| 5 日目 | 【発表、ディスカッション】 間伐実行監理演習 | | 次回事前 準備説明 | ふりかえり、 次回に向け たひとこと | | |

【研修Ⅱ（第2週）】

| | 午前 | | 午後 | | |
|---------|--|--|---------------------------------------|--|-----------|
| 1 日目 | | | 研修Ⅰとの 関係 フォレスター の役割の再 確認等 | 【講義＋演習】 森林資源循環利用構想策定演習 (林業専用道の検討) | ふり かえり |
| 2 日目 | 【現地実習】 森林資源循環利用構想策定実習 (地形、地質、林況、既存の路網等現地条件の確認) | | | 【演習】 森林資源循環利用構想策 定演習(林業専用道の検討 ビジョンの策定、発表準備) | ふり かえり |
| 3 日目 | 【発表準備、発表、ディスカッション】 森林資源循環利用構想策定演習 | | 【演習説明、班内共有、計画策定、発表準備】 市町村森林整備計画演習 | | ふり かえり |
| 4 日目 | 【発表、ディスカッション】 市町村森林整備計画演習 | | 研修全体 のふりかえり | 【意見交換】 目指すフォ レスター像 | |

(2) 林業技術の開発普及

各森林管理局では、森林技術・支援センターを中心に、地域の特性に応じた林業技術の開発に取り組んでいます。取組成果については国有林野の管理経営に活かすとともに、現地検討会等を通じて地域の林業関係者等への普及にも努めています。

平成24年度は、生物多様性の保全のための森林管理技術の開発をはじめ、植栽や間伐等の低コスト化の取組等、87の技術開発課題に取り組みました。こうした技術開発は、研究機関や大学等とも連携しながら進めています。

事例 低コスト造林作業システムの構築へ向けた取組

初期成長に特に優れた品種（エリートツリー）は、植栽本数や下刈回数の削減が見込めることから、造林の低コスト化に向けて実用化が期待されています。

九州森林管理局森林技術・支援センターでは、エリートツリー及び候補木を活用した造林・保育作業の低コスト化の実証試験に取り組んでおり、平成24年度に実証試験地を設定し、エリートツリー及び候補木と併せて比較のための通常苗を植栽しました。

今後は、成長量調査や、コスト削減効果の検証を実施することとしています。
（九州森林管理局 森林技術・支援センター）



場 所：宮崎県日南市 にちなん やまかりや 山仮屋国有林
 説 明：写真は、プランティングチューブによる植栽作業の様子(左上)、植栽されたエリートツリー(左下)、調査の様子(右)です。

(3) 地域振興への寄与

国有林野事業は、計画的な木材の供給（79ページ参照）、事業の民間委託を通じた事業者の育成や就労の場の提供（93ページ参照）、国有林野の貸付けや売払い（87ページ参照）、森林空間の総合利用（89ページ参照）、分収林制度の活用（33ページ参照）、民有林と連携した森林施業等の推進（19ページ参照）等を通じて、地域産業の振興、地域の活性化、住民の福祉の向上等に貢献しています。

事例 世界文化遺産^{注)}登録へ向けた取組

岩手県釜石市^{かまいし}は近代製鉄発祥の地です。同市橋野地区の洋式高炉跡は、現存する国内最古のものであり、鉄鉱石の採掘場、運搬路と併せ、日本の産業近代化の歴史を示す遺産の一つとして、世界文化遺産への登録を目指しています。

橋野高炉跡の南側に広がる国有林野は、かつて、製鉄の原料となる鉄鉱石や高炉の燃料となる木炭の生産地であり、国有林野内にはそれらを運ぶ運搬路跡が存在し、構成遺産候補の一部となっています。

東北森林管理局では、これらの国有林野について、釜石市と保存協定を締結し、保護林「橋野鉄鉱山郷土の森」を設定しました。

今後、釜石市と連携し、初期近代化を物語る産業遺産や景観の保全を図るとともに、一般の方々が日本の近代化の歴史や、そのバックグラウンドとなった豊かな森林について学習できる場として活用することとしています。
(東北森林管理局 三陸中部森林管理署)



場 所：岩手県釜石市 橋野第一国有林ほか
説 明：写真は、橋野高炉跡の様子（左）と、調印式の様子（右）です。

(4) 東日本大震災からの復旧・復興への貢献

東日本大震災からの復旧・復興については、地域に密着した国の出先機関として、地域の期待に応えた取組を行ってきました。

被災した海岸防災林の復旧・再生については、専門家からの意見も踏まえて、生物多様性の保全にも配慮しながら取り組んでいます。樹木の生育基盤の造成に当たっては、安全性が確認された災害廃棄物由来の再生資材も盛土材として積極的に活用し、その後の植栽については、企業やNPO等の協力も得つつ、取り組んでいます。

また、関係機関と協力しながら、生活圏周辺の国有林野の除染に取り組むとともに、福島県内の国有林野をフィールドとして、森林の除染に関する知見の集積や技術開発のための実証事業に取り組みました。

さらに、放射性物質の影響により被災地域で供給不足となっているきのこ原木の供給等を通じ、全局を挙げて復興支援に取り組みました。

(5) 関係機関等との連携の推進

国有林野事業の推進に当たっては、これまで労働組合との共通の認識に立って取組を円滑に進めるとともに、関係行政機関等との連携に努めてきたところであり、引き続き、様々な森林・林業・木材産業関係者等との情報共有を図り、相互の理解と協力の下、連携した取組を推進するよう努めています。

事例 海岸防災林の復旧・再生に向けた取組

仙台森林管理署では、平成24年5月から、宮城県仙台市荒浜地区の国有林において、海岸防災林の復旧・再生に向けた取組を開始しました。生育基盤の造成には、仙台市内で発生した災害廃棄物由来の再生資材を活用するとともに、生育基盤の造成が完了した同地区において「みどりのきずな」再生植樹式を開催し、地元住民等により2,200本の苗木を植栽しました。

また、海岸防災林再生の活動希望者の募集を行い、平成25年2月に14の民間団体と協定を締結し、各団体が植栽や保育活動等を行うこととしています。

(東北森林管理局 仙台森林管理署)



場 所：宮城県仙台市 やまなかぼやし 谷地中林国有林
 説 明：写真は、海岸防災林の生育基盤を整備するための盛土工事（上）と、地元住民等の協力による植樹式の様子（下）です。

事例 生活圏周辺の国有林野の除染の取組

国有林野事業では、関東森林管理局に「森林放射性物質汚染対策センター」を設置し、関係行政機関と連携し、放射性物質に汚染された森林の除染等に取り組んでいます。

平成24年度は、市町村の除染実施計画に沿って、関係機関と連携しつつ、生活圏周辺の国有林野（8箇所6.22ha）において除染を実施しました。

（関東森林管理局 森林放射性物質汚染対策センター）



場 所：福島県田村市 ひがしふるみち 東古道国有林（上）、きたむき 北向国有林（下）
説 明：写真は、落葉等の堆積有機物の除去の様子(上)と、針葉樹の枝葉の除去の様子（下）です。

事例 森林における除染等実証事業

林野庁では、森林の除染に関する知見の集積や技術の開発のため、実証事業に取り組んでいます。

平成24年度には、福島県相馬郡飯舘村そうま いいたてにおいて、放射性物質の除去や拡散抑制に向けて、間伐等の森林施業、落葉等の除去、表土流出防止工等を実施し、作業方法別の経費や効果等の実証に取り組みました。

(林野庁)



場 所：福島県相馬郡飯舘村 飯舘国有林
 説 明：写真は、表土流出防止工の様子(左上)、枝葉をチップ処理している様子(右上)、落葉等を集積している様子(下)です。

事例 きのこ原木不足への対応

東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質拡散の影響により、基準値を超えるきのこ栽培用の原木が出荷停止となったため、きのこ原木が全国的に供給不足となっています。

各森林管理局では、都道府県や関係団体などで構成されている「きのこ原木安定供給実行委員会」に参加し、国有林からの原木供給可能情報の提供等に取り組んでいます。

こうした中で、^{たなくら}棚倉森林管理署では、同委員会での需要者との調整結果を踏まえ、地元組合にきのこ原木に適した立木を販売しました。

(関東森林管理局 棚倉森林管理署)



場 所：福島県東白河郡鮫川村 ^{ひがししらかわ} ^{さめかわ} ^{いやなぎざわ} 伊柳沢国有林

説 明：写真は、都内で開催された「きのこ原木安定供給実行委員会」の様子（上）と、販売されたきのこ原木に適した林の状況（下）です。